

聖書が教える結婚 —その1— 創世記2章18～25節

「また、神である主は言われた。『人がひとりであるのは良くない。わたしは 人のために、ふさわしい助け出を造ろう。』」（創世記2章18節）

今朝は、聖書が示す神様の御旨の結婚とは何かについて、共に学びましょう。

人は神様によって、神のかたちに似せて造られました。そして、神様は人間が最高に幸福に生きるために、素晴らしい世界を造られました。青い空、緑の森、愛らしい花、小鳥、そして動物。これらすべてのものは、人間が生きるために、幸せに生きるために、どうしても必要でした。

しかし、これ程の神様からのプレゼントに囲まれながら、最初の人、アダムは非常に寂しそうでした。実は、アダムの回りにいるすべての生き物が、どんなに頑張っても、彼を心底から慰め、助け、喜び、そして満足を与えることは出来なかったからです。

考えてみれば、アダムには親（人間の父、母）がいません。ですから、天涯孤独でした。どんなに美しい自然に囲まれていてもそれは寂しかったことでしょう。

(2:18節) そこで、神様は言われました。「人がひとりであるのは良くない。わたしは 人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」確かに、独身生活も素晴らしいかも知れませんが、更に別の恵みの生活を神様は備えておられます。アダムが更に幸せになるために、

神様は早速、行動に移りました。

(2:21、22節) 「神である主は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。神である主は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。」

この箇所「主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。」を読んで、ある医者は「これは、世界で最初の手術だ」と叫びました。更に「・・深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。」ジェームス・シンプソンは手術をする時に、どうしても必要な麻酔をすることについて、この箇所からヒントを得ました。そして、やがてクロロホルムから麻酔剤を製造したと聞きました。

・「あばら骨から・・」ある方が面白いことを言いました。「神は女をアダムの頭から造らなかつた。彼女が傲慢になって男を支配しないためである。神は女をアダムの足から造らなかつた。男に踏みつけられない様にてである。また神は男の脇から女を造つた。それは、女が男と同等の者として彼の腕（かいな）によって守られるようにである。そして、いつも、彼の心臓の近くにあるように・・。」

——— 結婚への3つのプロセス ———

さてここに、結婚に至るまでの3つのポイントがあります。

・第1、(2:21節) **神様は女性を男性のあばら骨から造られました。**

そうです。女性は男性の心の一番近い所から造られました。ですから、男が一人にいる時、その男の心には大きな空洞があるのです。よって成人した男は、自分の心の一番近い所から造られた女性を発見するまでは、決して満足をすることはありません。

ここで、男と女の違いについて、考えてみましょう。男は外見的に強いように見えますが、内面的には不器用で弱くもろいようです。また、男は女性を支配(愛によって)し、守るもので、常に、神様の前に勇氣ある者でなくてはなりません。

また女性は男性に仕える者であり、男と共に、男の傍らにあって、共に神様を崇める者でなければなりません。この様に、女性は男性を支える者として、造られたのです。

(エペソ 5:22～25節)「妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。キリストが教会の頭であり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。」

・第2、(2:21節) **神様は女性をアダムの眠っているうちに造られました。**

いつの時も、結婚は当人たちの知らないうちに、神秘的に進行しているようです。又、神様は当人たちの願いよりも、はるかに素晴らしい計画を持っておられます。そして、その実現を願っておられます。そのことを、私たちははっきりと理解すべきです。そして、それ程までに、私たちを真剣に愛して、確実に導いてくださっておられる神様を私たちは、もっと信頼しなければならぬのです。

——— 見られていたリベカの愛の行動 ———

(創世記 24:11～20節、読む) アブラハムのしもべは、その子イサクの結婚相手をさがすために主人アブラハムの出身地に行きました。その地に着いた時、彼は神様にこの働きが成功するように祈りました。まだ祈り終わらないうちに、そこにリベカさんがやって来ました。しもべが「水を・・・」と言いますと、彼女はしもべに飲ませただけではなく、すべてのらくだにまで水を飲ませました。(24:21)「この人は、主が自分の旅を成功させてくださったかどうかを知らうと、黙って彼女を見つめていた。」人の行動は誰かに見られています。リベカさんも見られていました。その様な時に、御業が進められるのかもしれない。

あるカップルのお話です。二人は婚約目前でした。二人はレストランで食事をしていました。そんな時でした。相手の男性が、ウエイトレスのささいなことで乱暴なことばを吐きました。ほんの一瞬でしたが女性は男性の今まで心から信頼してきた思いが崩れ去ってしまったのでした。平素の生活を大切にしたいですね。

・第3、(2:22 節) **神様が女性を男性の所に連れて来られます**。神様が二人を合わせて下さるのです。ですから、結婚問題の中心に神様の主権を認めましょう。

この様に、神様の深い御旨が、神様ご自身によって具体的に進められて行くのです。

現代の結婚の悲劇。それは神様が連れて来ない人を、自ら奪って、神様を無視して、勝手に結婚をしてしまう事にあります。ですから、いつか、気が変わったり、感情が薄れたり、熱が冷めて、相手に飽きてきたりした時、二人の関係はいとも簡単に破壊されてしまいます。フィーリング・カップルなども危険ですね。相手の気が変わったならば、そしてもっと気に入った人が現れたら終わりかもしれません。

ある婦人が言いました。「好きな人、愛する人がいたならば、その人を一旦神様にお返しなさい。献げなさい。もしその人が御旨ならば、神様がその聖い祭壇から、その人をあなたに与えてくださるでしょう。その時、その人を受けなさい。神様が上から与える者があなたにとって良き者であり、受け取るべき人なのです。」

——— 「私が見た夢」 ———

1980年の秋、秋田に行きました。お見合いをするためでした。一応、教会の礼拝奉仕をするためという名目で、初めて家内と会いました。そこで牧師先生ご夫妻を挟んで良き交わりをしました。その日の夜、夢を見ました。それはなんと私が彼女にふられてトボトボと秋田から帰って行く夢でした。真夜中、起き上がって、この夢の意味は何なのか、考えました。示されたのは私の傲慢でした。多分、私が結婚したいと言えば、この話は決まっていたのです。とんでもない思い上がりでした。私は真っ暗な部屋の中で布団の上に正座をして祈りました。高慢の罪を告白して、赦していただく祈りをしました。神様に姉妹と結婚したい私の気持ちをお伝えしました。そして、朝を迎えました。その聖日、2回の奉仕をさせていただきました。すべての奉仕が終わった後、先生に彼女と結婚したいとの気持ちをお伝えしました。翌朝、先生から「姉妹も、吉井先生との結婚を望んでいますよ」とのお返事をいただきました。

神様は大切な結婚の決意をする時、私の心の中にある罪をご覧になり、この様な方法で取り除いてくださったのです。私は彼女を、確かに神様からいただくことができたのでした。

さて、アダムは神様が連れて来て下さった女性と出会いました。その時アダムは叫びました。(2:23 節)「これこそ、ついに私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。男から取られたのだから。」

彼は確信し、心から満足、納得して叫びました。「この人こそ、私が待ちに待った人、私

の心のふるさと、その人だ！」

アダムは今、神様が連れて来られた人と出会っているのです。そして、彼は発見しました。その人こそが、私と結婚すべき世界中でたった一人の人であると……。私も、家内と出会った時、この創世記2章23節のみことばが与えられました。

さて、教会の独身の皆さんにも、いつしか自分にとってただ一人の人を発見する時が、神様から与えられる時が来る事でしょう。しかし、肉の目ではなかなか結婚の相手を、発見することは難しいようです。ぜひ「私はまだまだ、これから」と思っている人も、真面目に真剣に、今日からでも祈り初めていただきたいと思います。間違っただけはいけません。たくさんの異性の中から良い人を選ぶではありません。発見するのです。

祈りとは発見への旅立ちです。祈っていると、御旨の方が見えてきます。

(第二コリント 1:24 節)「私たちは、あなたがたの信仰を支配しようとする者ではなく、あなたがたの喜びのために協力して働く者です。」

(第一サムエル 16:7 節)「主はサムエルに言われた。『彼の容貌や背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。』」

仲の良い二人が、今まではうわべを見て、惹かれ合って来たかもしれないが、これからは心を見つめ合って、本当に互いを理解する努力を積み上げて行くべきだと思います。

——— ボンフェファーのことば ———

でも、中には愛さえあれば結婚なんか必要ないという人もおります。でも、私は出来れば結婚した方が良いと思います。

ボンフェファーのことばです。彼は次の様に言いました。「愛が結婚を持続させるのではない。結婚と言う制度が、愛を持続させるのだ。」

私たちは罪人です。どんなに頑張っても私たちの、理性、知性、愛は罪によって汚染されています。悪魔はそんな弱い所を突いて来ます。ですから、謙遜にならなければなりません。

当人が、どんなに自信を持っていたとしても、弱いと言う事を常に自覚すべきです。

初心に戻りましょう。結婚式の誓約です。牧師は新郎、新婦に問いかけます。「・・・あなたは、神の教えに従って夫(妻)としての道を尽くし、常にこれを愛し、これを敬い、これを慰め、これを助けて変わることなく、その健康の時も、また病気の時も、これに対して固く節操を守ることを誓約しますか。」この時、二人の「ハイ」で結婚が成立します。結婚生活は、神様の前での「誓い」からスタートするのです。

独身者はそんな結婚を目指しましょう。既婚者は、今の生活を持続しましょう。

主の祝福を祈ります。